



さあ、

# 子どもたちと ふれあおう!



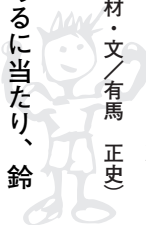
## 皆で協力し合って、思いやりの心を育ててほしい

### 一放課後子ども教室「清和のもり」(三重県)一

三重県鈴鹿市では、放課後子ども教室の活動目標の一つに様々な体験・交流・学習活動を通じて、子どもたちの社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性の涵養<sup>かんよう</sup>を掲げている。

その目標を実現するよう、鈴鹿市立清和小学校内にある清和の森に隣接する清和公民館では、放課後子ども教室「清和のもり」を2007年度から週1回、金曜日に開催している。その取り組みを紹介する。

(取材・文/有馬 正史)

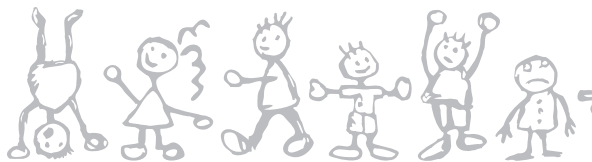


07年度、「清和のもり」を始めるに当たり、鈴鹿市文化振興部生涯学習課の平子賢一さんは、当初「教室」なのか「放課後」なのか、また、安全・安心は大事だがそれだけでよいのかと悩んだと話す。結果的にはワークショップを開き、子ども

たちのやりたいことを見つけ出すことから始めたが、08年度はコーディネーターを主任児童委員の大蔵かよ子さんをお願いするに当たり、一任することにした。

「清和のもり」は1年生から5年生まで31人、低学年が多い。大蔵さんは、子どもたちがばらばらに遊び、まとまりがないことに気づいた。近くに大きな自動車工場があり、新住民の流入もあり、住民の地域密着度が低いこともひとつの要因ではないかと言う。そこで、子どもたちが学年を超えて、みんなで協力し合って頑張れる遊びを考え、1脚に牛乳パック36個を使う六角形のイス作りを提案した。

やりたいことを子どもたちと一緒に考えて決めるのが大蔵流。保護者にも協力を呼びかけ牛乳パック集めにみんなで汗を流し、次第にイスの形が見えてくると、真剣になって協力し合う姿が見ら



れるようになった。5年生の知野彩乃さんは、妹の陽菜乃さん（2年生）と参加しているが、「イス作りは難しかったけど、協力して作るの楽しくなった」と話してくれた。同学年の森田有紀さんも「いろんな柄のイスをみんなと一緒に作るのは楽しかった」と同じ意見。

取材当日は、清和公民館の谷口洋二館長が講師の焼き芋大会だった。サツマイモは谷口館長からのプレゼント。子どもたちがサツマイモをアルミホイルで巻いている間に公民館の中庭に3つのかまどができた。瞬く間に火のついたかまどの煙に



煙が目にしみるが、焼き芋の出来具合も気になる

巻かれて子どもたちは歓声を上げる。

目を細めながらサツマイモを火の中に投げ入れ、待つこと20分。火の中から拾い上げた熱々のサツマイモを口にほおぼる。口々に「熱いけどおいしい」の声。ここでは、火の熱さや煙の煙たさも体験できるのだ。

すっかり焼き芋に満足した子どもたちは、今度は自慢の手作りイスを使っ

てイス取りゲームだ。ゲームを繰り返していた時、イスに座れなかった2年生の女の子が泣き始めた。すると、4年生の女の子がその子を呼んで、ひざの上に乘せてあやし始めた。見ていた大蔵さんは、「子どもたちで解決できることは解決させる。これを待っていたのです」とつぶやいた。

大蔵さんをサポートする

安全管理員（ボランティア）は11人。1回の活動に5、

6人が協力するが、子どもたちをつかず離れず見守っていた。これも大蔵流か。

子どもたちからの「何をしたいか」に耳を傾け、それを皆で協力して実現させて、子どもたちを育てる大蔵さんの取り組みが、さらに発展していくことを期待したい。

手作りイスでイス取りゲーム。自分のイスに誰が座る？

